

令和8年6月「月報」

<会長挨拶>

初夏を過ぎ、梅雨の季節を迎えました。5月は、国内では35℃を越す猛暑日を記録した地域もありました。都内でも30.2℃の真夏日を記録。しかしその数日後には、一転して15.6℃と3月下旬の気温となり、電車の中では半袖の方と冬服の方が混在する状況もありました。寒暖差の大きい日々。会員の皆様には、くれぐれもご自愛ください。

戦後最も厳しく複雑と云われる安全保障環境。米国・イスラエルとイランの戦い、そしてホルムズ海峡の封鎖は続いています。またロシアのウクライナ侵略は、5年目となりました。さらに中国海警局に所属する船舶等の尖閣諸島周辺の接続水域への侵入は、昨年11月15日以降、連日続いています。

この様な国際環境を踏まえ、4月27日、第1回「総合的な国力から安全保障を考える有識者会議」が開催され、年末の国家安全保障戦略等の改定に向けての議論が始まっています。

さて、東京都自衛隊家族会は、東京地方協力本部のご支援を頂き、5月23日に令和8年度の定期総会・防衛講話・懇親会を実施致しました。多くの方にご出席いただき、令和8年度のスタートを切ることができました。ありがとうございました。

令和8年度は、昭和51年に「社団法人全国自衛隊父兄会」となってから、50年目の節目の年です。皆様のご協力を頂きながら、節目の年に相応しい一年としたいと思っております。引き続き宜しくお願い致します。



(写真は、有識者会議 官邸Hより)

<東自家族会の活動>

1 令和8年5月の活動

(1) 東京地方協力本部出陣式

5月21日(木)東京地方協力本部で、令和8年度の任務完遂に向けての出陣式が行われ、森山会長が出席しました。

鹿子島地本長は「7年度は全員の努力により、募集は6年度より大幅に向上した。援護と予備自は、昨年に引き続き任務を達成することができた。本年度も『知恵と工夫と本気の努力』で必ず任務を完遂する」と訓示しました。

この際、7年度成果に基づく表彰式が行われ、募集では新小岩募集案内所等が、援護では立川駐屯地援護室が表彰を受けました。また募集、援護、予備自の優秀隊員の紹介も行われました。



(2) 定期総会の開催

5月23日（土）令和8年度定期総会を開催しました。

総会は、13時30分から東京洋服会館の会議室において実施し、令和7年度事業報告、令和7年度収支計算書、令和8年度事業計画、令和8年度収支予算書等が了承されました。

なお、8年度事業計画では、10月17日（土）に全会員を対象とした自衛隊に関する勉強会（防衛講話）を開催致します。

なお、総会の審議に先立ち、自衛隊家族会会長からの優秀会員表彰を受けられた11人の方に東大家族会長からの優秀会員表彰状が、それぞれ授与等されました。

また、12名の方が、永年会員表彰を東大家族会長から受けました。また、本年度から自衛隊家族会会長の永年会員表彰がはじまり、14名の方が表彰を受けました。

防衛講演会は、東京洋服会館で東京都防衛協会との共催で開催し、東京地方協力本部長の鹿子島洋陸将補から「人材確保に係る取り組み」と題するご講演して頂き、約50人の会員等が聴講しました。



懇親会は、ホテルグランドヒルで開催し、鹿子島東京地方協力本部長をはじめ多くの来賓の出席を得て、有意義な意見交換の場となりました。

なお森山会長は、ご挨拶で「自衛隊家族会のキャッチフレーズは、『隊員と家族をつなぐ』です。自衛隊家族会は、隊員とその家族が、強い信頼の絆で結ばれている状態を作っていく。今後は、より一層その役割を果たしていかなければならないと思っています。我々、自衛隊家族会の会員は、隊員の家族を支える立場でもあり、と同時に隊員の家族として支援を受ける立場でもあります。令和8年度は、隊員の家族が、お互いがお互いを支え合う、その支援の輪をより大きく広げていく、そのような年にしなければなりません」と述べました。

(3) 新隊員教育部隊の研修

女性自衛官教育隊（朝霞駐屯地）

5月26日（火）13:00～15:30間、朝霞駐屯地（東京都練馬区）に所在する東部方面混成団隷下の女性自衛官教育隊の研修を東京地本のご支援をいただき、教育を履修中のご家族の方を含め、17名が参加して実施しました。

研修では、朝霞訓練場での戦闘訓練を実施している新隊員を激励するとともに、新隊員の居室の研修を行いました。

全力で教育に取り組んでいる逞しい新隊員の姿を実際に目にする貴重な機会となりました。



また、同駐屯地に所在する東部方面音楽隊の研修も行い充実した一日となりました。

2 6月以降の主な事業・行事

(1) 空自第2教育群の(熊谷基地)研修

令和8年6月25日(木) 10:00~14:00

集合: 場所別示(その後は東京地本の支援を頂きます。)

(2) 第1普通科連隊での新隊員教育修了式

令和8年6月27日(土) 練馬駐屯地

(3) 女性自衛官教育隊での新隊員教育修了式

令和8年6月28日(日) 朝霞駐屯地

(4) 令和7年第1回4地区協議会長等意見交換会

令和8年7月26日(日) 14:00~16:30

場所: 別示

(5) 海上自衛隊横須賀教育隊(海自武山基地)

令和8年7月下旬で調整中です。

3 その他

(1) 近郊の自衛隊のイベント情報(各部隊などのホームページより)

ア 修武台記念館見学会(空自入間基地)

第4回: 令和8年6月27日(土)

(要申込6月12日(金)〆切)

第5回以降の予定は、右の表の通り

問い合わせ先: 「修武台記念館運営室」

TEL: 04-2953-6131 (内線 2356)

(平日 08:15~17:00 まで)



	公開日(予定)	応募期間	当選通知日(基準)
第1回	4月25日(土)	3月30日(月)~4月10日(金)	4月17日(金)
第2回	5月16日(土)	4月13日(月)~4月24日(金)	5月1日(金)
第3回	6月10日(木)	5月11日(月)~5月22日(金)	5月29日(金)
第4回	6月27日(土)	6月1日(月)~6月12日(金)	6月19日(金)
第5回	7月25日(土)	6月29日(月)~7月10日(金)	7月17日(金)
第6回	8月1日(土)	7月6日(月)~7月17日(金)	7月24日(金)
第7回	8月23日(日)	7月27日(月)~8月7日(金)	8月14日(金)
第8回	9月12日(土)	8月17日(月)~8月28日(金)	9月4日(金)

イ 第45回横浜開港祭(艦艇広報)

日時: 2026年6月1日(月)・2日(火)

開催場所: 横浜港大さん橋(神奈川県横浜市)

連絡先: 自衛隊神奈川地方協力本部 電話: 045-662-9429

(2) 防衛省のホームページから (第7回防衛力変革推進本部 会議資料より)

「衛生機能の強化」における基本的な考え方

これまでの整備状況

現在の防衛力整備計画に基づき、南西地域における衛生機能の強化として、自衛隊那覇病院の建替えに伴う同病院の病床の増加、診療科の増加等を図るとともに、第一線から最終後送先に至るまでのシームレスな医療・後送体制として、DCS (Damage Control Surgery) 教育の開始、自衛隊において血液製剤を自律的に確保・備蓄する態勢を構築。

各種事態への対処や国内外における多様な任務に対応し得るよう、各自衛隊で共通する衛生機能等を一元化して統合的な運用を推進するとともに、防衛医科大学校も含めた自衛隊衛生の総力を結集できる態勢を構築し、戦傷医療能力向上のための抜本的改革を推進する。

今後の方向性

ウクライナ侵略の教訓から得られる継戦能力確保の必要性等の観点から

- ・長期的な視点を踏まえた衛生資器材 (医薬品及び衛生物品)、病床数及び医療人材の確保が急務。
- ・有事においては、急性ストレス障害 (ASD) 及び心的外傷後ストレス障害 (PTSD) の発生が増加することや、兵器の能力向上による外傷性脳損傷や四肢の障害による運動器障害が増加することから身体的リハビリテーションの需要が高まると予想されるため、防衛省・自衛隊として統一的な計画・実施プロセスの整備が必要。

次期計画に向けて
以下の実現に向けた検討を本格化

- ・ 衛生資器材の確保
- ・ 病床数、医療人材の確保
- ・ 有事ストレス障害に対する体制の整備
- ・ 身体リハビリテーション体制の整備

10

現状とあるべき姿

Before



- ① 衛生資器材の確保
- ・ 長期的な視点を踏まえた確保の強化が必要
 - ・ 医薬品の原材料等の輸入先を多様化することが必要



- ② 病床数・医療人材の確保
- ・ 長期的な視点を踏まえ、現在自衛隊病院等で保有する病床数及び医療従事者以上に病床や医療従事者を確保していくことが必要



- ③ 有事ストレス障害に対する体制の整備
- ・ 有事を想定した政策及び医療体制の整備を進めていくことが必要



- ④ 身体リハビリテーション体制の整備
- ・ 防衛省・自衛隊としてリハビリテーションに関する統一的な計画・実施プロセスを充実させていくことが必要

After



- ① 衛生資器材の確保
- ・ 長期的な視点を踏まえた確保策を検討し、事態対処に対応できる体制
 - ・ 関係機関と連携し、国内におけるサプライチェーンの確保



- ② 病床数・医療人材の確保
- ・ 長期的な視点を踏まえ、必要な病床数を確保
 - ・ 長期的な視点を踏まえ、協力可能な医療人材の確保



- ③ 有事ストレス障害に対する体制の整備
- ・ 隊員自らのセルフケアや上司によるケア、継続的な教育体制
 - ・ 指揮官への教育機会の制度
 - ・ 有事に活動するメンタルチームの編成と、運用体制
 - ・ 有事ストレス障害の調査・研究、人材育成の体制



- ④ 身体リハビリテーション体制の整備
- ・ 専門チームの編成及び育成
 - ・ 早期介入プロトコル等の作成
 - ・ 患者への専門的医療の提供や部外医療機関との連携
 - ・ 職務復帰支援、ピア・サポート (負傷隊員やその家族の相談体制)

11

<地区協議会だより>

- 城南地区協議会 ○ 城北地区協議会 ○ 城東地区協議会 三多摩地区協議会

<東京地本からの連絡事項>

〒162-8850 東京都新宿区市谷本村町 10 番 1 号
自衛隊東京地方協力本部 東京都自衛隊家族会連絡所
TEL 03-5228-7833 (FAX 同時切替)

東京都自衛隊家族会賛助会員のご紹介 (登録順)

前参議院議員 佐藤 正久 様	昭島ガス株式会社 代表取締役 平畑 文興 様
前衆議院議員 松原 仁 様	衆議院議員 長島 昭久 様
柴田法務会計事務所 柴田 純一 様	衆議院議員 松本 洋平 様
衆議院議員 小田原 潔 様	衆議院議員 山田 美樹 様